

専門職大学における情報系科目の外部評価システムの試作

概要資料 2025年1月28日版

研究責任者 開志専門職大学情報学部 西川浩平

<研究の背景・目的>

< 背景 >

大学のシラバスは、大学がどのような教育に取り組んでいるか示す手段であり、荻谷(2012)は「シラバスは外部からの大学評価に関わる重要な情報源のひとつとして位置づけられている。」(p.131)¹と述べている。専門職大学では、600時間以上のインターンシップ相当を行う臨地実務実習が必須科目であり、受け入れ先の企業や自治体は、学生の持つ資格や経験に加えて、学生が履修した科目のシラバスを確認することで、学生の能力を推測することになるが、シラバス評価の例として文部科学省(2011)の「1. シラバスに関する認証評価の評価基準と事例」²があるが、教育機関の視点であり、企業視点ではない。

生成AIやAIエージェントのように日々の発展が著しい情報技術やデジタル技術分野では、シラバスの改善や授業課題を設定する際には、各科目の担当教員の経験や実社会のニーズをもとに策定する。企業の現場の声を直接聞くわけではないため、実社会のニーズから外れることがあり、情報系科目のシラバスでは実社会からのニーズを汲み取った内容が求められることから、定期的に企業の現場の声を集める仕組みが必要である。

また、ベネッセの調査³において、目的がなく入学し、受け身姿勢の増加が指摘されている。こうした受け身姿勢による学習の改善や日々の学習意欲を如何に高めるかが課題である。

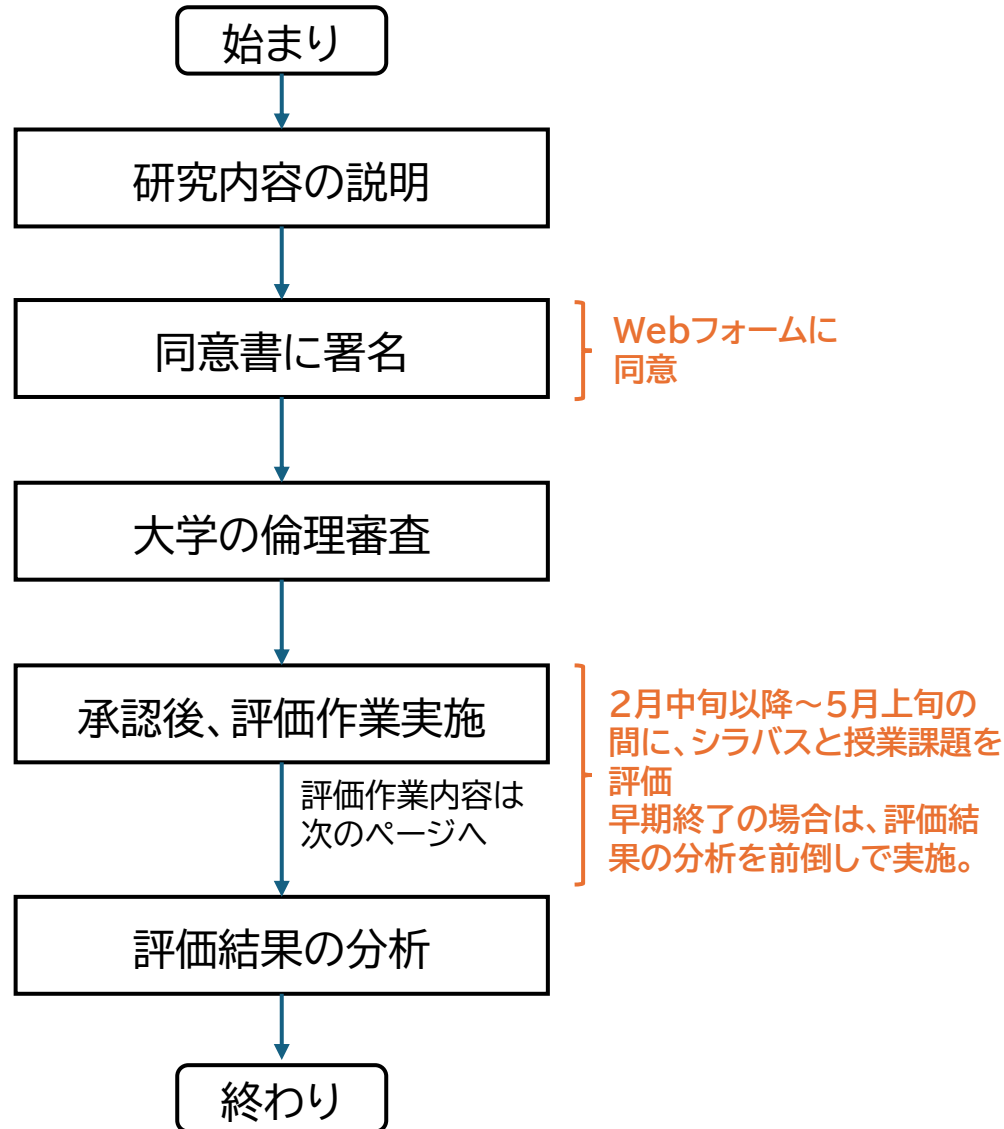
< 目的・意義 >

情報系科目のシラバスおよび授業課題の改善に際して、企業視点からの声を集める仕組みとして構築した試作Webアプリケーションについて、実際に授業で使われているシラバスおよび授業課題のレビュー作業を通して、その必要性を評価する。本研究により、大学視点では情報系科目の内容が、実社会に即した形で改善が行われること、学生が授業に対する興味を高めることによる学習意欲の改善、臨地実務実習やインターンシップを受け入れる企業には、関連技術を理解した学生やモチベーションの高い学生が参加する可能性が高まる。

< 参考文献 >

- 1). 荻谷剛彦(2012).『グローバル化時代の大学論1 - アメリカの大学・ニッポンの大学 - TA、シラバス、授業評価』. 中央公論新社, グローバル化時代の大学論, 227p .
- 2). 文部科学省(2011).「1. シラバスに関する認証評価の評価基準と事例」.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/attach/1314237.htm , (参照 2024-08-18) .
- 3). ベネッセ総合研究所(2022).「第4回 大学生の学習・生活実態調査報告書 データ集 [2021年]」.
https://benesse.jp/berd/koutou/research/detail_5772.html , (参照 2025-01020) .

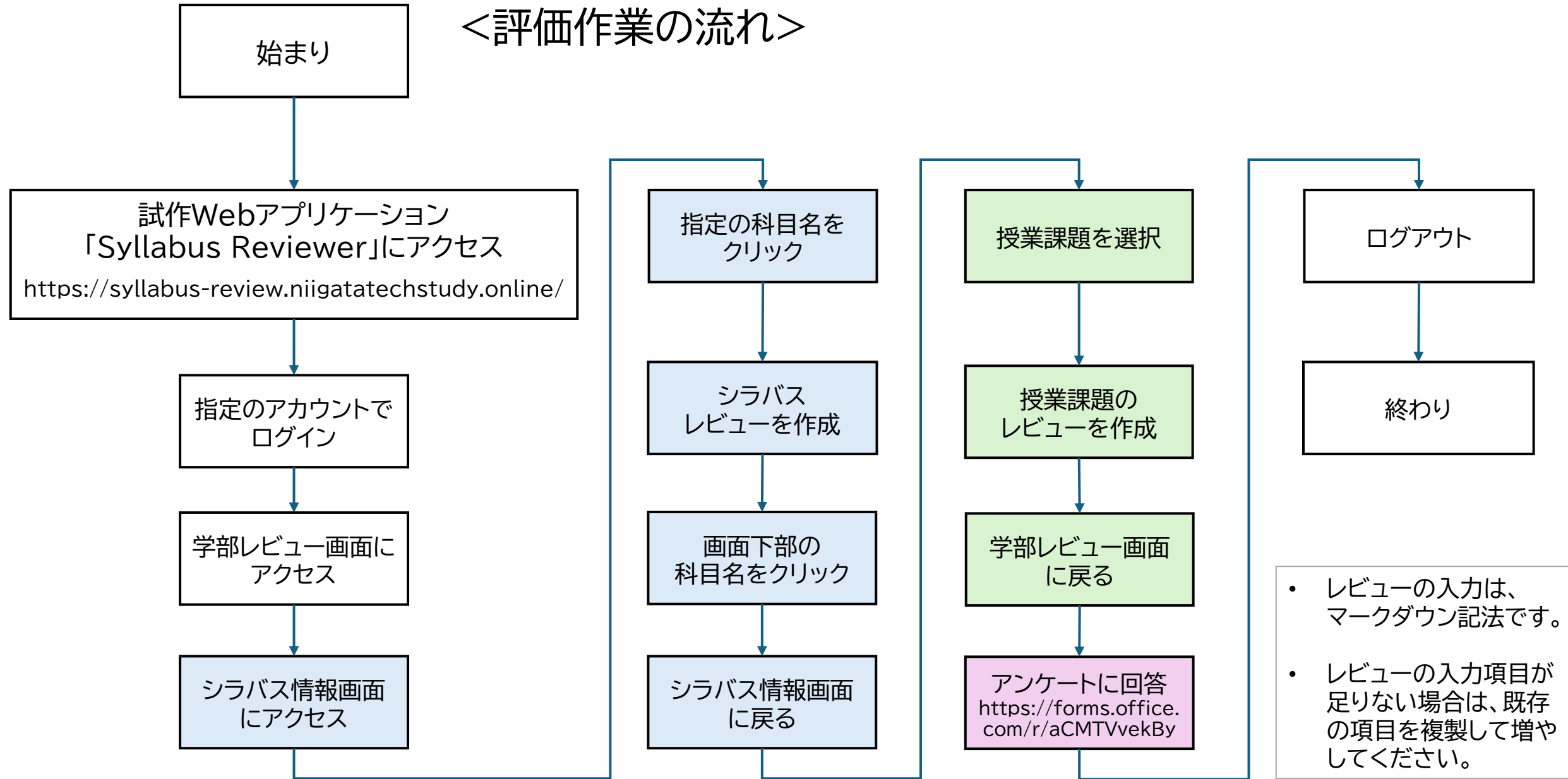
<研究協力の流れ>



<ご協力いただきたいこと>

- 研究協力にあたり、個人情報を取得することはありません。
評価作業用のアカウントを貸与いたします。
作業結果は、シラバスレビュー担当者01 のように表示されます。
- 貸与アカウントを用いて、本研究用に構築した専用Webアプリケーション「Syllabus Reviewer」に登録されている、本学の一部の科目のシラバスと、授業課題について、評価を行ってください。
 - 評価作業の流れは、次のスライドをご確認ください。
 - 評価作業実施時にZoom接続先を用意しますので、ご不明な点がございましたらお気軽にご質問ください。Zoom接続時は、音声以外にテキストチャットでも対応いたします。
 - 上記を実施後、本研究に関してアンケートにご回答ください。
<https://forms.office.com/r/aCMTVvekBy>
 - 評価作業とアンケート回答について、凡そWebブラウザのみで、1～2時間程度を想定しています。

<評価作業の流れ>



試作Webアプリケーション「Syllabus Reviewer」

Webアプリケーション上で、大学の授業の学習計画である「シラバス」と授業中の「課題」について、評価を登録します。直接授業内容を評価されることで、専門職業人を育成する専門職大学の授業が、社会から離れていないか確認します。

科目で行う授業課題を選ぶ

科目のシラバスを選ぶ

授業課題情報

シラバス情報

授業課題確認と評価はシラバスと同じUI、同じ手順

授業リクエスト

シラバスの内容確認

評価者による評価の入力、保存

シラバス評価後、授業課題の評価へ。

回数	主題	学習目標 番号	各回の学 習目標	各回の学 習目標	評価方法
1	ガイダンス、クラウドコンピューティングとは	1	サンプル	サンプル	
2	オンプレミス環境とクラウドの使い分け	2	サンプル	サンプル	
3	オンプレミス環境とクラウド間の連携	2	サンプル	サンプル	レポート1 (選択式: Node-REDによる開発課題 または、AIエージェント開発課題)
4	クラウド使いこなし: IoTとシステム間連携	2	サンプル	サンプル	
5	クラウド使いこなし: AIとシステム間連携	2	サンプル	サンプル	